

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600455		
法人名	有限会社 フクダ		
事業所名	グループホーム こすもすの家		
所在地	岡山県美作市真加部1385-1		
自己評価作成日	平成 23 年 3 月 12 日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	現在停止中
----------	-------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人の意志を尊重し、その人らしい生活を送って頂けるように援助しています。入居者の方の体調管理を行い、毎日元気に生活できるようにしています。季節ごとの行事を取り入れ、季節を感じられるようにしています。時間を気にせず、ゆったりとした生活ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に設立したこのホームと平成18年に開設した2つ目のホームを合体して2ユニットのホームとして昨年度生まれ変わった。それまで代表者やベテランの管理者で運営していたが、2ユニット化をきっかけに若い2人の管理者に運営を委ねた。特に男性の管理者は職員の意識改革として「アセスメント・チェック表」という職員自身が自分の思いや気付きを見付けだすと言うシートを使い、職員のスキルアップを願っている。又、美作県民局の主催する「認知症の重度化予防実践研修会」で発表したり、勝田地区施設交流会の世話をする等対外的にも活躍している。このような場で発表する事が楽しくできるようになったと自信を持ってきた。介護専門の学校で勉強していない事が色々な面で発想の観点が異なり、自ら考えたマネージメントが出来ている。もう一人の女性管理者は利用者一人ひとりにじっくり、ゆっくりと話を聞き、利用者の笑顔が見られる関わりが出来るように心掛け、心のケアを大切にした介護に取り組んでいる。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時に再確認し、実践につなげている	代表者の強い思いで作成した理念は職員によく浸透している。加えて、職員は日々のケアの中から打ち出した目標も含め、更によりホームにしていこうと理念と目標に向かって頑張っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地区の保育園や小学校との交流をしている。	地域の行事に参加したり、日常的に近所への外出を心掛け、地域の人との触れ合いを楽しんでいる。地域の行事にも快く受け入れてもらえるようになった事は、理解が深まっている証である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員・愛育委員・地区の住民に参加して頂き、認知症の話を行ったりして理解を求めている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、現状報告等を行い、そこで出た意見を聞き、次の介護サービスの向上の参考にしている	メンバーには家族会代表もおられ、相互協力、理解が得やすい。定期開催以外にも必要あれば臨時会議を開催する事もある。脱水症や看取りについて等、専門的な勉強会を行った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、わからないこと等、市の担当者に相談したり、運営推進会議のときにも相談したりして、協力関係を築いている	県民局や包括支援センターとの連携は十分行っており、他施設と合同で行う研修会もスキルアップに役立っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強会を行い、身体拘束については、熟知している	代表者は言葉の拘束を意識し、伝達講習を行った。転倒歴のある利用者の再発防止の為家族の了解を得て、ベッド柵を使用している事例はある。命を守る見識は全職員が共有している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員がともに高齢者虐待防止の研修会に参加し、施設内において報告を行い、すべての職員が注意・防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている方がおられないが、研修会には参加し必要に応じて活用できるようにそなえている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、納得して頂いた後、契約書にサイン・捺印をもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いて、家族の意見を聞く場所を設け、そこで出た意見や要望を運営させている	家族宛のコスモス通信の発行や家族会から運営推進会議で意見を述べる等の連携がとれている。電話メモ帳に交信を記録し、運営や介護計画に反映させることも行っている。	家族会代表者は、家族の意見や要望を集約して運営推進会議に提案できるように、ホーム側からのアプローチが出来れば、更に家族会が充実した会に成長していくのではないかと。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開き、職員の意見や提案を聞いている	管理者は職員とよく連携し、積極的な意見がある時は代表者につなげている。代表者は全権を管理者に委ね、信頼関係の中で意見や提案を反映させるよう考えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護をしやすいような職場環境を整えている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護の力量を見ながら、いろいろな研修への参加を検討し、職員一人ひとりのレベルアップに努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設交流会を開き、勉強会や意見交換などを行って、相互にサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の話を聞くと、困っていること・不安なこと・要望を十分に聞きながら、安心して生活できるような関係づくりをしたうえで、サービスの提供を行っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の話を聞くと、一番困っていること・不安に思うこと・施設に対する要望などを充分聞いたうえで、施設において、出来ることなどを説明し安心してもらい、サービスに繋げている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、一番本人にとって何が必要かを、本人・家族と話し合い、必要とする支援を見極めている。また、他のサービスの利用も含め検討している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、本人と一緒に出来ることを探したうえで、出来ることは、なるべく一緒に行き生活を共にするようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と色々なことを相談しながら、入居者本人の支援をしている。どんなことでも、家族と相談し、信頼しあい、家族と共に支援している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・同級生・近所の方の面会・訪問があったり、時には、馴染みの場所にドライブに行ったりしている	利用者は地元出身者が多いので、地域の行事や近辺への外出を積極的に支援している。利用者の生活歴の中から把握した大事な人や場所との関係継続は人間の尊厳に値するものであることを認識して欲しい。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、世間話をしたり、レクリエーションや洗濯物たたみ・干しを一緒にしたりして、利用者同士の関わりがもてている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係を大切にし、必要に応じて、支援や相談に応じている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思に沿った暮らし方をしてもらっている。困難な場合、なるべく意思に近いかたちでの、生活をして貰えるよう心がけている	ホームでは、利用者に5分間じっくり向き合っていくことを実践する中で、利用者の動きに共に行動する試みもある。そこから生まれる相互の信頼関係の中から思いを受け止めるよう心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の中に、自宅で使っていた馴染みの物を置いたりして、なるべく生活環境が変わらないようにサービスに努めている。環境に対応できないときは、少しずつでも慣れていただけるよう努力している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の状況に合わせた生活を送ることや毎日の心身状態の把握につとめている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、ケアカフェレンスを行い、本人・家族の意見を取り入れたり、職員の意見などを反映させ、介護計画を作成している	申し送りノートで利用者の日常を記録し、ミーティングで検討する。サービス担当者会議で具体的要望をまとめ、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、日々の気づきなど、職員間で情報を共有しながら、介護を行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しての対応の心がけはできているが、サービスの多機能な面では、取り組みが出来ていない面もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか、地域資源が把握できず、支援に取り入れることができていない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を受診したり、施設のかかりつけ医の往診が月2回行われている	特養、老健施設、病院、かかりつけ医、協力医療機関との連携体制の概要を作成し、玄関に掲示している。支援体制が明確に示されているので、本人、家族は安心出来る。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、身体の変化があった場合、看護師に相談し、病院受診などの対応をしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護支援情報提供表にて、病院側にその方の情報を細かく提供したり、病院の方にも訪問し、状態を確認し合いながら、病院との関係づくりを行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化時の対応・看取りについて事業所で、出来ること十分に説明し、家族には同意書に署名・捺印を貰っている。先生から、終末期が近づいてきたと言われた場合、再び説明をさせて頂いている	代表者は自身の母親をこのホームで看ていることで、利用者、家族の心情を深く受け止めている。「最後までこのホームに居たいと本人、家族が望むなら看取りまでしてあげたい」と意向を持っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は、応急手当や初期対応の講習などを行い、またベテランの職員が指導し、実践できるようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルにそって、全職員が避難の方法を身につけている。地域の消防団の方にも施設の中の避難経路についても確認して頂き、協力体制ができている。	運営推進会議の中で、夜間の対応について検討中である。地域の住民と避難場所の設定とか、災害時に地域として何が出来るか等、話し合っておくことも必要であろう。	近隣の力に頼らざるを得ない事態も想定し、日頃から運営推進会議を通じた話し合いが大切。避難場所の設定や、隣人として何が協力出来るかを話し合っておくことも大切と思う。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけや対応に努めている	職員と利用者が自然体で交わるよう、このホームでは心掛けています。必要に応じては敬語と適用語を区別し、尊厳を保つ支援をしている。いたる所に利用者名が出されているが問題は起きていない。	訴えかけの少ない人にはとにかく気持ちが届けにくい面がある。ホームの方針となっている一人5分間、少なくとも全員に是非実現に向けて頑張ってもらいたい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり出来るよう、声かけをしたりして働きかけをしている。本人がなかなか意思決定ができない場合が多いので、職員が協力し、少しでも意思決定ができるよう、働きかけをしている			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにそった生活が出来るよう心がけてはいるが、時折職員のペースになってしまう場合があるので、注意している			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、自分の着たい服を選んでもらったり、髪の毛を整えたり、たまにお化粧をしたりしている			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いが出来る人には、一緒に作ってもらったり、配膳・下膳ができる人には、してもらっている	利用者は目の前の調理風景を眺め、山菜とりや食材の話しながら昼食が出来るのを心待ちにしていた。外の風に当ろうという目標に向け、全員で外食を楽しんだり、ウッドテラスで焼肉も楽しむ。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量・水分の調節をおこなったり、好みの飲み物を提供したりしている。硬いものなどは、刻んだりして食べやすい状態で提供している			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夜の2回は必ず口腔ケアを行って貰っている。総入れ歯の方は、入れ歯を夜間、洗浄剤の液の中につけ、朝まで消毒している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった定期的なトイレ誘導を心がけている。なるべく、トイレでの排泄を促すようにしている	全体が高齢化してきた為、以前から頑張ってきたおむつ外しは困難になっている。一人ひとりのサインをキャッチし、気持ち良い排泄が出来るよう、声掛けし、トイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を調理したり、しっかり水分補給をしてもらったりしている。少しでも歩いたりして貰い運動につなげている。それでも出ない場合、薬の服用で調節する場合もある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように支援している。本人の希望に添った入浴を心がけてはいるが、時々スタッフの都合での入浴になってしまう場合がある	隔日の入浴を基本とし、希望すれば毎日でも可能だ。歌をうたったり、日頃会話出来ない内容も飛び出し、入浴ならではの解放感が楽しめている。家庭用の浴槽の大きさなので安心感がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者、一人ひとりの薬について理解しており、薬を手渡し、服用したかまでをしっかりと確認している。病状の変化に対しても充分確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった、役割や分担を決めて楽しみごとをつくり、気分転換に努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暖かい日は、なるべく外に出れるようにしえんしている。地域の行事ごとにも積極的に参加させてもらい、地域への外出もするようにしている。気分転換にドライブに出かけたりもしている	地域の行事に参加したり、他グループホームの行事に招かれて出向くこともある。近辺の散歩途中、地域の人と会話を楽しむ事は日常的に支援している。ドライブすると旅行気分になる人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理の出来る方はして頂いています。そして、ご自分の好きなものを職員に買って来て欲しいと頼まれたりします。しかしほとんどの方がご自分で金銭管理ができないので、こちらが、管理している状態です		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、自由ですので、出来る範囲内でやって頂くように支援しています		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者が混乱をまねくようなものは置かないようにしています。室温・湿度には特に注意しています。季節感のある飾り物などをし、楽しめる空間作りを心がけています	廊下の日だまりはいつも誰かが独占している。コスモス写真館となっている廊下の写真を見ながら、「これが私かな、忘れてしまうたわぁ」行き交う毎に職員との会話を楽しんでいる。季節感も満載であった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、気のあった人同士がソファに座って話しをしたり、個人が思うような場所で生活している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、使い慣れたものを置いたり、自分の趣味の物を置いたりし、住みやすい工夫をしている(使い慣れた筆筒・写真・テレビ・ぬいぐるみなど)	畳とフロアー2通りの居室があり、自分の好みに合わせた工夫が出来ている。居室入口近くに写真館の大写しの写真が貼ってあり、自分を発見して、思わず我に返った様子顔が微笑ましかった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく「出来ること」「わかること」はして頂き、安全に生活が送れるよう支援している		